

中国語を母語とする日本語学習者に対する「にとって」の指導法

謝 冬

博士課程後期

広島大学大学院 国際協力研究科 教育文化専攻

〒739-0041 広島県東広島市鏡山1-5-1

xiedongyuyan@aliyun.com

中国語を母語とする日本語学習者に対する「にとって」の指導法

謝 冬

博士課程後期

広島大学大学院 国際協力研究科 教育文化専攻

〒739-0041 広島県東広島市鏡山1-5-1

xiedongyuyan@aliyun.com

はじめに

「にとって」は初級段階で導入されている基本的な表現であるが、中国語を母語とする日本語学習者によって作られた不自然な文を目にすることが少なくない。

- (1) a. *あるおじいさんはガンの末期になってしまった。普通の人にとって、きっとずいぶん悲しみに沈んでばかりいるに違いない。(は) (華東)⁽¹⁾
 b. *自分の人生は自分で自由に選べなさそうです。私にとって、これからの人生はどう歩くか困っています。(は) (華東)
 c. *現代人にとって、毎日勉強だの仕事だのに追われて(→追われて)いて、本を読む暇がない。(は) (華東)
 d. *私にとって禁煙運動が(→を)全力で支持します。(としては) (作文)
 e. *彼にとって、どんなに難しくても最後まで頑張らなければならない。(としては)
 (筆者が収集した例)

これらは他の形式(「は」、「としては」⁽²⁾)が使われるべきところに「にとって」が使われた誤用例であり、「Xにとって」が動詞述語文に使われ、主体⁽³⁾として捉えている点で共通している。宮田(2009)は「Xにとって、AはB」におけるBの位置を占めるのは名詞・形容詞を基本とするが、不自然な例になりやすいのは形容詞であると指摘している。しかし、学習者は動詞述語文にも「にとって」の誤用例を多く産出している。

中国語を母語とする日本語学習者向けの教材を分析してみると、そこには「にとって」に関する解説は前接語や中国語訳などが与えられているだけであり、基本的意味の提示が不十分だったり、与えられていなかったり、また「にとって」の使用場面⁽⁴⁾も提示されていない。

文法的直観を持たない学習者にとって、一番頼りにするのは教材の解説ではないかと思われる。そこで、本稿は教材の問題点を明らかにしたうえで、中国語を母語とする日本語学習者の特徴を考慮しながら、教室

での説明に供する「にとって」の指導法を提案することを目的とする。

第1節では、教材における「にとって」の扱われ方とその問題点を明らかにする。第2節では、「にとって」を指導する際に必要な項目を検討する。第3節では、中国語を母語とする日本語学習者に対する「にとって」の指導法を提案する。

1. 教材における「にとって」の扱われ方とその問題点

中国国内で広く使われている日本語の総合教材⁽⁵⁾では「にとって」を次のように扱われている。

《综合日语》：这个句式大多接在指人名词的后面，表示从该人物〈或事情〉的角度，立场来评价某事物。相当于汉语的“对…来说”。(この文型の多くは人名詞に接続し、この人(あるいは事柄)の角度・立場からある物事を評価する意味を表す。中国語の“对…来说”に相当する。)

《新编日语》：「体言+にとって」，表示叙述的事项是对该体言而言的。相当于“对…来说”。(「体言+にとって」という形で、後に叙述する事項がこの体言に対しての意味を表す。中国語の“对…来说”に相当する。)

《标准日语初级教程》：接在人物名词和表示机关、团体、机构等名词后，可译成“对…来说”。(人名詞や組織名詞に接続し、中国語の“对…来说”に訳せる。)

以上の教材における「にとって」の扱われ方をまとめると、表1になる。

表1. 教材における「にとって」の扱われ方（「×」は説明が与えられていないことを表す。）

	新出課	前接語	意味解説	中国語訳
《総合日语》	第2冊第16課	人名詞	この人（あるいは事柄）の角度・立場からある物事を評価する意味を表す	“对…来说”
《新编日语》	第1冊第19課	体言	後述する事項がこの体言に対しての意味を表す	“对…来说”
《标准日语初级教程》	第33課	人・組織名詞	×	“对…来说”

表1から次の二点が明らかになった。一つ目はすべての教材で「にとって」が初級段階で導入されている点であり、二つ目はすべての教材で中国語訳が与えられている点である。

問題点としては以下の三点が挙げられる。一つ目は「にとって」の基本的意味の解説が不十分だったり、与えられていなかったり、誤用を招きやすい点である。例えば、《新编日语》では「にとって」の意味解説は「表示叙述の事項是对该体言而言的」というわかりにくい用語で説明している。《标准日语初级教程》をみても「にとって」の意味解説が与えられておらず、学習者は「にとって」を理解する際には、結局中国語訳の“对…来说”に頼るしかない。

二つ目は日本語の「にとって」とその中国語訳の“对…来说”とのずれが説明されていない点である。日本語の「にとって」はほとんど中国語の“对…来说”に対応しているが、中国語の“对…来说”は必ずしも日本語の「にとって」に対応していない。例えば、冒頭で挙げた(1e)⁶⁾では中国語の“对…来说”は使えるが、日本語の「にとって」は使えない。教材でこのようなずれが説明されていなければ、学習者はこの両者を同一視してしまう可能性がある。

三つ目はすべての教材で「にとって」の使用場面が提示されていない点である。

文法項目を提示する際、それに使う文型や基本的意味の他に、使用場面を提示する必要もある。使用場面に関して、白川(2002:67)は「『どういう場面に使うのか』を過不足なく説明するには、同時に『どういう場面には言えないのか』と言うこと、すなわち、言ってもよさそうだけれども実際は言えない場合についても先回りして説明し、誤用・非用を封じ込めることが必要である」と指摘している。また、中国語を母語とする日本語学習者向けの初級教材では対応する適切な中国語訳を与える必要もあると思われる。

では、第2節においては「にとって」を指導する際に、必要な項目としてそれに使う文型、基本的意味、使用場合、中国語訳という順にそれぞれを見ていく。

2. 「にとって」の指導上に必要な項目

2.1 「にとって」に使う文型

中国語を母語とする日本語学習者の作文から、次のような誤用例が産出されている。

- (2) a. *おもしろい風習にとって大切にすべき(だ)と
 思います。(華東)
 b. *ほとんどの仕事にとって、英語を使う場所が多い。(華東)

これらは「にとって」を「風習」や「仕事」のような抽象的名詞に接続し起きた誤用例である。

「にとって」文は「Xにとって、AはB」という構造を持つとしている(森田・松木1989, 宮田2009)。以下それぞれX, A, Bの位置に来る成分を見てみよう。

「X」の位置には「人名詞・組織名詞」が来るとしているのが一般的な指摘である。(グループ・ジャマシイ1998, 宮田2009)。

「A」は「は」の前に来るため、名詞性成分となる。

宮田(2009:44)では「B」は名詞述語・形容詞だと指摘している。「B」のところ動詞述語の形をとることもできるが、金(2009:106)は母語話者と学習者の使用例⁷⁾における「にとって」の使用及び誤用⁸⁾を比較し、母語話者は動詞の使用が少ないのに対し、学習者は動詞の使用が母語話者より多い一方、そのほとんどが誤用になっていると指摘している。従って、本稿は宮田(2009)に従い、学習者に提示する際、「B」には動詞述語を提示せず、名詞や形容詞が来るとする。

以上をまとめると、「Xにとって、AはB」におけるX, A, Bはそれぞれ「X=人名詞・組織名詞; A=名詞性成分; B=名詞・形容詞」となる。

2.2 基本的意味

2.2.1 「にとって」の意味用法に関する先行研究

「にとって」の意味用法に関する先行研究は森田・松木(1989), 庵他(2001), 宮田(2009), 藤城(2005)などが挙げられる。

森田・松木(1989:5)では「判断や評価を成立させる立場・視点を示す表現」、庵他(2001:45)では「価値判断・評価を行う立場を表します」、グループ・ジャマシイ(1998:447)では「『その立場から見れば』という意味を表す」としている。しかし、このような「立場・視点」という説明では、「*その案は私にとって反対です。」のような誤用例を作ってしまう可能性がある。この場合、「私」という「立場」から「その案は反対です」という判断をしているにも関わらず、非文になる。

このような問題点を解決するために、宮田(2009:

40-42) は「にとって」の基本的意味を「少なくともXの場合は、「AはBだ」と言える」としている。また、「少なくともXの場合は」という留保をつける必要がある場合は、判断「AはBだ」がX以外にも適用されるような一般性を備えたものであると指摘している。この点を、「納豆は嫌いだ」や「その案は反対だ」のような個々の経験者Xを超えた一般性を持たない文が「にとって」句として不適格であるという例の説明に用いている。

しかし、非母語話者、特に初級段階の日本語学習者にとって、基本的意味からそこまでの意味を理解させるのはむずかしいであろう。特に教育現場では論証の過程を記述するのが無理であるため、このまま考察の結果のみを教材に持ち込むと、かえって誤解を招く可能性がある。例えば、「*中国人にとって、納豆が嫌いです。」という文は宮田(2009)が指摘している「にとって」の基本的意味に従えば、学習者は「他の国の人にはわかりませんが、少なくとも中国人の場合、納豆が嫌いです。」と理解してしまう可能性も十分想定しうる。

藤城(2005:38)では「[x⁽⁹⁾にとって、AはB]におけるx, A, Bは、「xを受け手と想定して、Aを解釈すると、Bである」という関係にある。」と説明している。ここの「受け手」とは、「解釈をする際の基準となるもの」である。

「xにとって」における「x」を「受け手」と捉えたと、冒頭で挙げた(1)のような「x」を「主体」と捉えている誤用が避けられるが、藤城(2005:38)の論説を教材に持ち込めば、文を理解する上で難しいであろう。

- (3) a. 参加するなら妊娠している事は伝えた方が、一緒に作業する人にとっても良いです。
b. 八十に近い老人にとって、千駄谷までの道は遠かった。

(3a)(3b)はそれぞれ「一緒に作業する人を受け手と想定して、「妊娠している事」を解釈すると、「伝えた方が良いです。」、「八十に近い老人を受け手と想定して、「千駄谷までの道」を解釈すると、「遠かった。」となり、文の意味がわかりにくくなる。

2.2.2 「にとって」の基本的意味に関する本稿の立場

本稿は初級日本語学習者向けの教材における文法解説はわかりやすく、誤解をさせないという指針のもとで、「にとって」の基本的意味を次のように捉える。

「にとって」の基本的意味：

「Xにとって、AはBだ」という構造を持ち、「Xの立場から見れば、「AはBだ」という判断・評価を話し手が行う。」

「AはBだ」という判断を下すのは、三井(2001:23)や宮田(2009:40)が指摘する通り、Xではなく話し手である。

- (4) a. 毎日の遊びそのものが、成長のための栄養分です。子どもにとっては目にするもの、手にするもの、耳にするものすべてが新しい経験です。
b. 女性にとって、バランスのとれた栄養を取ることは重要です。

(4a)(4b)は、「すべてが新しい経験です」、「バランスのとれた栄養を取ることは重要です」という判断を下したのは話し手である。それぞれ「子供の立場から見れば、目にするもの、手にするもの、耳にするものすべてが新しい経験だ」、「女性の立場から見れば、バランスのとれた栄養を取ることは重要です」という判断を「話し手」が下している意味を表している。

ただ、「Xにとって」のXのところに第一人称の「私」が来る場合、「にとって」句の判断主体は話し手の「私」と重なり、同じく「私」となる。

- (5) その切符は、すでに雑文を書きはじめていた私にとって、五枚分の原稿料と同額だった。

(5)の判断主体は「私」であり、「私の立場から見れば、その切符は五枚分の原稿料と同額だった。」という意味を表している。

また、金(2009:108)は学習者が「Xにとって」における「X」を「主体」と捉えている誤用例が多いと指摘している。宮田(2009:42)もXを必須成分とし、「XはA {が/に} B」という文型をとる述語がBの場合、「Xにとって、AはBだ」は使いにくいと述べている。

- (6)⁽¹⁰⁾ a. *私にとって普通は親類と友達にハリラヤのカードを出します。(金2009:108)
b. *マレー人にとってハリラヤお祝いをするためにいろいろな準備をします。(金2009:112)
c. *中国人にとって、納豆は嫌いです。(宮田2009:41)

冒頭で挙げた中国語を母語とする日本語学習者が産出している誤用例は動詞述語文に用い、「X」を「主体」として捉えている点で共通している。例えば、(1a)(1b)ではそれぞれ、「普通の人」と「私」を「悲しみに沈んでいる」、「歩く」の主体として捉えている。このような誤用を避けるために、また、2.2.1で指摘している「にとって」を「立場・視点」から捉えている先行研究の不足を埋めるために、本稿は「Xにとって」を指導する際、「X」は「主体」ではなく、「受け手」であることも提示する。

以上、「にとって」の基本的意味をまとめると、次のようになる。「Xにとって、AはBだ」という文型に用いられ、「Xの立場から見れば、「AはBだ」という判断・評価を話し手が行う。」という意味を表す。「X」は「主体」ではなく、「受け手」である。

2.3 「にとって」の使用場面

2.3.1 「にとって」の使用場面に関する先行研究

「にとって」の使用場面に関しては、共起する表現と「XとA」の密接さという面からの記述が多い。以下、詳しく見る。

2.3.1.1 「にとって」と共起する表現を記述したもの

- a. 可能・不可能を表す表現や、「難しい」「有り難い」「深刻だ」など、評価を表す表現が続く。「賛成」「反対」「感謝する」などの態度表明にかかわる表現は用いることができない。(グループ・ジャマシイ1998: 447)
 - b. 「重要だ、大切だ、簡単だ」のような価値判断を表す形容詞の他、「一生の宝物だ、かけがえのない人だ、ささいなことだ、命の恩人だ」など価値判断を含む「名詞+だ」が来る。「美しい、汚い、貴重だ、有名だ」など客観的な状態を表す表現が述語に来ることはありません。(庵他2001: 45~46)
 - c. 「好きだ」「嫌いだ」「反対だ」「夢中だ」のように経験者格「Xは(が)」を必須成分とする述語では、「にとって」を持ち込む必要はない。(宮田2009: 42)
- (7) a. *その案は私にとって反対です。(グループ・ジャマシイ1998: 447)
 b. *彼女は私にとって有名だ。(庵他2001: 46)
 c. *中国人にとって、納豆は嫌いだ。(宮田2009: 36)

これらは「にとって」と共起する述部についての記述のみであり、「にとって」句全体の使用場面を包括的に説明していないという問題点が指摘できる。

また、文のレベルから「にとって」の適格性を述べている先行研究は藤城(2005)、森川(2006)が挙げられる。藤城(2005: 48)はxという受け手をわざわざ想定し、それを基準としたAの解釈を示す意義が見出せない場合、「にとって」文は成立しにくい。森川(2006: 14)では自明な事実の叙述は「にとって」文にはなじまないと説明している。

- (8) *私にとって、この部屋は摂氏38度もある。(森川2006: 14)

藤城(2005)、森川(2006)は「にとって」の使用場面の一側面を述べているが、その全体像は見えない。

2.3.1.2 「X」と「A」の密接さ

「X」と「A」の関係については、森川(2006: 11)は「にとって」句内のNP1と、叙述対象となるNP2⁽ⁱⁱ⁾とが物理的ないし心理的に至近距離にあること、言い換えれば、NP1がNP2に深くコミットする関係にあることも、「にとって」文の適格性を成立させる条件として存在すると説明している。

- (9) a. <状況設定：山田さんは2DKに家族5人で住んでいる。>
 *わたしにとって、山田さんの家は狭い。
 b. <状況設定：その山田家に私は居候することになった。>
 ○わたしにとって、山田さんの家は狭い。
 (森川2006: 10)

しかし、「XとA」の近さについては、宮田(2009: 38)が指摘しているように、その判定基準は難しいため、言語外の知識に求めるしかない。

2.3.2 「にとって」の使用場面に関する本稿の立場

2.2.2では「にとって」の基本的意味を「Xの立場から見れば、「AはBだ」という判断・評価を話し手が行う。X=受け手」と捉えている。本稿は「にとって」のこの基本的意味から、「にとって」の使用場面を統一的に説明する。

2.3.2.1 「判断・評価を行う」必要がある文との共起⁽ⁱⁱ⁾

「にとって」は「判断・評価」を表す表現として、「判断や評価を行う」必要がある文に使う。

2.3.1.1で挙げた態度表明にかかわる表現や「好き嫌い」などはあくまでも個人的な意見や心理的感覚などを述べているため、「判断を行う」過程が想定しにくいであろう。同じく森川(2006)が指摘している自明な事実の叙述は「判断を行う」必要がないため、「にとって」句として不適格である。また、藤城(2005)、金(2009)が指摘している「xという受け手をわざわざ想定し、それを基準としたAの解釈を示す意義が見出せない場合」は、言い換えれば「判断を行う」必要がないと言ってもよい。

- (10) * (結婚式の紹介) 食事にとって、タイ料理も中華料理も洋食もある。(金2009: 109)

金(2009)は(10)の場合、意味づけ・位置づけを行う意義が見出せないため、「にとって」が使えないと指摘しているが、この文はただの事実(現象)を述べているだけで、「判断を行う」必要がなく、「判断」を表す「にとって」文としては不適格であると思われる。

2.3.2.2 XとAの関係

森川(2006)が指摘しているXとAの密接さについては、論理的に考えれば、「判断を行う」ゆえに、全く関係がない両者であることは想定しにくいであろう。「判断」を行う必要があるのは、話し手はXとAがある関わりを持っていることが前提である。

- (11) a. *私にとって、カンボジアを今後もっとよい国にするためには今外国の援助はまだ必要だ。
 (金2009: 109)

b. 預金者にとっても, 金融機関は身近なものです。

(11a)における「外国の援助」が「私」と直接関わりのある事柄とは想定しにくいので、「にとって」文と共起しにくいと金(2009:109)によって指摘されている。一方, (11b)では「預金者」と「金融機関」とある関わりを持っているのが容易に想定できるため、「にとって」と共起しうる。

ただ, 2.3.1.2で述べたように, 「XとA」の近さの判定基準が難しいため, 本稿はとりあえず学習者に「X」と「A」をある関わりを持っている関係にあると提示する。

2.3.2.3 まとめ

本稿は「にとって」の使用場面として次の二点を挙げる。一つ目は「判断や評価を行う」必要がある文に使うこと。二つ目は「X」と「A」がある関わりを持っている関係にあると想定しうること。

2.4 「にとって」の中国語訳

中国語を母語とする日本語学習者向けの教材では「にとって」の中国語訳を“対…来说”と与えている。謝(2013)は学習者に中国語の“対…来说”文を日本語に訳させるというアンケートを行い, 学習者が中国語の“対…来说”をほとんど日本語の「にとって」と対応させている点から, 学習者は教材で習った通りに「にとって」を使っている可能性を示している。

呂叔湘(1980:157)では, “対…来说. 表示从某人, 某事的角度来看. 有时候也说‘对于…来说’.”(「対…来说」はある人, ある事から見ることを表す。“对于…来说”を使用する場合もある)と指摘している。一方, グループ・ジャマシイ(1998:447)では, 「にとって」について, 「多くは人や組織名詞を表す名詞を受けて, その「立場から見れば」という意味を表す」と述べている。こう見れば, 日本語の「にとって」は大体中国語の“対…来说”と対応しているように見える。しかし, 第1節でみたように, (1e)のような中国語の“対…来说”と日本語の「にとって」と対応していない場合もある。

これについて, 馬(2011:121)は中国語の“对于(对)……(来说)”は“会, 得, 希望”など「能力, 義務, 希望」を表す語や“或者是”など「選択」を表す語のような補助条件が備えれば, 文の実質的な主体を示す場合がある。この場合, 中国語の“对于(对)……(来说)”は, 日本語の「にとって」に対応せず, 「としては」などに対応すると説明している。

(12) a. 对于一个指挥员来说, 起初会指挥小兵团, 后来又会指挥大兵团。
(*戦闘指揮官にとって, 最初は小部隊を指揮することが出来, 後は大部隊を指揮することも出来るようになる。)

b. 对于公司来说, 希望把损失压缩到最小的程度。
(*会社にとって, 損失を少しでもカバーしたい。)

(馬2011:121)⁽¹³⁾

また, 刘(2012:10)では, “对(对于)……(来说)”介引的成分是后面谓语句成分的主事元成分。“对(对于)……(来说)”は後ろに来る述語の統語上の文の主語となる。)と述べている。

(13) a. 对于传统产业来说, 面临如何向现代公司转换的过程。

(*伝統産業にとって, いかに現代に適した事業に転換するのかという課題を抱えている。)

b. 对于任何单个的恒星来说, 都既有产生的一天, 也有衰老死亡的一天。

(*どの星にとっても, 現れる日もあれば, 現れない日もある。)(刘2012:10)

(13)のような主体を表している“对(对于)……(来说)”文は馬(2011)が指摘している補助条件は備えないが, 「にとって」とも対応していない。また, これらの主体を表している“对(对于)……(来说)”文は判断文も要求していない。

主体を表す“对(对于)……(来说)”文の成立条件は別稿に譲るが, いずれにしても, “对(对于)……(来说)”文は主体を表す場合があることと判断文を要求しないことが明らかになった。これに対して, 日本語の「にとって」は「受け手」を表すため, 「主体」にならず, 判断文のみに用いられるという点で中国語の“对(对于)……(来说)”と違っている。こういった両言語間のずれは教材で指摘されていないため, 中国語を母語とする日本語学習者は「にとって」を主体として使う誤用例を産出する傾向にあるのではないと思われる。

3. 指導法の提案

以上の考察に基づいて, 本稿は「にとって」の指導法を次のように提案する。

「にとって」を導入する際, 次の5点を説明する。

- I 「Xにとって, AはBだ」という文型に用いる。
- II X=人名詞・組織名詞, A=名詞性成分, B=名詞・形容詞。
- III 基本的意味: Xの立場から見れば, 「AはBだ」という判断や評価を話し手が行う。(X=受け手)
- IV 使用場面: ①「AはBだ」という判断を行う必要がある文に使う。②「X」と「A」がある関わりを持っている関係にあると想定しうる。
- V 日本語の「にとって」は大体中国語の“対…来说”と対応するが, 次の2点で異なる。①日本語の「にとって」は主体にならないのに対し, 中国語の“対…来说”は主体を表す場合もある。②「にとって」は判断文にしか使われないが, 中国語の“対…来说”は判断文に限らず, 他の文型にも使える。

I と II については、名詞・形容詞述語の例文を挙げてこの文型を説明し、動詞述語の使用が誤用につながることを学習者に注意させる。

III については、判断や評価を行うのは X ではなく話し手であることを明示して、次のような例文を挙げる。

- (14) a. この問題は三年生にとって難しすぎる。
b. この問題は私にとって難しすぎる。

さらに、X が「主体」ではなく、「受け手」であることに対しても注意を促す。

IV については、次のような例を挙げて説明する。

- (15) a. 私にとって、この本は宝物だ。
b. *私にとって、0.5 は二分の一と同じだ。
c. 預金者にとっても、金融機関は身近なものです。
d. *私にとって、カンボジアを今後もっとよい国にするためには今外国の援助はまだ必要だ。

V については、次のような例を挙げて説明する。

- (16) a. *彼にとって、どんなに難しくても最後まで頑張らなければならない。
a' 对他来说、不管多么艰难都得坚持下去。
b. *どの星にとっても、現れる日もあれば、現れない日もある。
b' 对于任何单个的恒星来说、都既有产生的一天，也有衰老死亡的一天。

4. おわりに

本稿は中国語を母語とする日本語学習者向けの教材における「にとって」の問題点を明らかにしたうえで、「にとって」を指導する際に必要な項目を検討し、教室での説明に供する「にとって」の指導法を提案した。これからは授業実験を計画し、本稿が提案している「にとって」の指導法の有効性を検証しようとする。

注

- (1) 「華東」と「作文」は、それぞれ「華東政法大学作文コーパス」(研究代表者：杉村泰；URL：<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~sugimura/class/corpus/zhengfa.html>)と「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベースオンライン版」(研究代表者：宇佐美洋；URL：“http://jpforlife.jp/contents_db” http://jpforlife.jp/contents_db)を指す。出典を明示していない例は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発した「現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言」(2009)による。
(2) (1a)(1b)は「としては」が用いられない。これは主体を表す「としては」は文中に使いにくいためであろう。一方、(1c)「追れて」は誤用で、本稿は「追われて」に訂正した。

また、こういう時、「としては」も使える。(1d)「禁煙運動が全力で支持します。」における格助詞「が」は誤用で、本稿は「を」に訂正した。また、こういう時、「は」も使える。(1e)は「は」も適格である。

- (3) 先行研究では「Xにとって」という成分は「主語性のような必須成分として機能しにくい」(杉本2006)や「必須成分にならない」(宮田2009)や「主体になりえない」(藤城2005)としている。「主語性のような必須成分」は曖昧で、「主語」であるかどうかが明示的に指摘しておらず、誤解を招く可能性があるため、本稿は、藤城(2005)に従い、「主体」という用語を用いる。
(4) 先行研究では「使用条件」(宮田2009)や「成立条件」(藤城2005、金2009)などとしているが、本稿は学習者向けの教材では一番わかりやすい「使用場面」という用語を用いることにする。
(5) 《新編日語》(1993)上海外语教育出版社、《综合日語》修订版(2005)北京大学出版社、《标准日語初级教程》(2003)北京大学出版社。
(6) (1e)の中国語訳は「对他来说、不管多么艰难都得坚持下去。」である。
(7) 母語話者の用例は「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベースver.2」の母語話者の作文データ及び朝日新聞記事データベース「聞蔵IIビジュアル」の新聞記事を使用した。学習者の用例は「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベースver.2」に収録されている作文データを使用した。
(8) 母語話者における動詞の使用率は8.6%で、学習者における動詞の使用率と誤用率はそれぞれ29.2%、92.6%である。
(9) 藤城(2005)や金(2009)では小文字の「x」が使われている。
(10) 例文の番号は金(2009)と違い、本稿の番号に応じて変えた。以下も同様である。
(11) 森川(2006:11)で指摘している「NP1」「NP2」はそれぞれ本稿の「X」と「A」に相当する。
(12) 「判断を行う必要がある」とは、「判断を行う意義が見出せる」という意味で使われている。学習者向けの文法としては、わかりやすい用語で説明するのが理解しやすいので、本稿では「判断を行う必要がある」とする。
(13) 日本語訳は筆者による。以下も同様である。

参考文献

- 庵功雄他(2001),『日本語文法ハンドブック』,スリーエーネットワーク。
金蘭美(2009),「xにとってAはB」構文の意味・用法—母語話者と学習者の使用例の比較を通して—,『日本語教育』142, 102-112。
グループ・ジャマシイ(1998),『教師と学習者のための日本語文型辞典』,くろしお出版。
白川博之(2002),特集 記述的研究と理論的研究—記述的研究と日本語教育,「語学的研究」の必要性和可能性,『日本語文法』2-2, 62-80。
謝冬(2003),中国語の介詞“对”及びその関連形式と対応する日本語の複合格助詞—翻訳調査からの考察—,『北研学刊』9,

- 147-157.
- 杉本武(2006), 「にとって」文の機能と成立条件, 藤田保幸・山崎誠編『複合辞研究の現在』和泉書院, 137-167.
- 藤城浩子(2005), 「にとって」文の機能と成立条件, 『東京大学留学生センター教育研究論集』14, 35-55.
- 三井正孝(2001), ニトッテ格の共起条件, 『新潟大学国語国文学会誌』43, 12-38.
- 宮田公治(2009), 「にとって」の意味と構文的制約, 『日本語教育』141, 36-45.
- 森川結花(2006), 複合助辞「にとって」の注釈・含意機能と言語現象, 『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』14, 1-16.
- 森田良行・松木正恵(1989), 『日本語表現文型 一用例中心・複合辞の意味と用法一』, アルク.
- 马小兵 (2011), 《日语复合格助词与语法研究》, 深圳报业集团出版社.
- 对志远 (2012), 框式介词“对(于)……来说”的话题焦点标记功能, 《通化师院学报》33, 9-11.
- 吕叔湘 (1980), 《现代汉语八百词》, 商务出版社.

Abstract

Study on the guidance of “nitotte” oriented to Japanese-learners whose native language is Chinese

Xie DONG

Ph.D.Student

Graduate School for International Development and Cooperation

Hiroshima University

1-5-1 Kagamiyama,Higashi-Hiroshima,Hiroshima,739-8529 Japan

xiedongyuyan@aliyun.com

Firstly, pointed out in this paper are the problems of “nitotte” grammar explanations that Chinese-speaking learners encounter in Japanese textbooks. The guidance offered on “nitotte” by such classroom explanations is detailed below.

1. In sentence forms like “X nitotte, A ha B da”, X = an individual’s name, institutional nouns, A= nominal element, B = nouns, adjectives.
2. Basic meaning: from the perspective of X, we can get such judgment or evaluation as “A ha B da”. X = recipient
3. Usage: ①it must be used on an occasion where “X nitotte, A ha B da” shall be judged; ②there must be a certain relationship between X and A.
4. “Nitotte” in Japanese generally corresponds to “对…来说” in Chinese. The difference is that “对…来说” in Chinese can indicate subjects in some cases and may also be used in a non-judgmental sentence as well, which is not possible with “nitotte”.